

南海放送

活動名	「災害時における情報への向き合い方を学ぼう」 松山市立高浜小学校メディアリテラシー授業
実施期間	令和6年9月
実施回数	学校訪問1回・社内見学時1回

【実施学校】 松山市立高浜小学校

【事業実施の成果・課題】

放送局に実際に入り、機材や放送の様子を見学することで、子どもたちは、これまで以上にテレビ・ラジオというメディアに親近感を持ってくれました。また、今回の事業を通じて、「将来は放送局で働きたい」と話してくれる児童もいて、こうした世代への働きかけとしても大変意義がありました。

この授業を受けて、児童たちは後日、地域のハザードマップづくりを手掛け、地域の大人とともに地域防災に取り組む一助にもつながりました。高浜小の先生方にも、教科書でも学んだメディアリテラシーの内容も、実際に放送局に足を運び、放送局の人が語ることで、子どもたちの理解の深度が全く違うことを感じたとの意見も頂きました。

【事業担当者・講師の感想】

実感として小学生たちは、まだまだ放送にとっても興味を持っていてくれると思いました。目を輝かせてスタジオを見学し、メモをとる子どもたちの姿に、業界としての未来への希望も感じました。「若者のテレビ離れ」が言われて久しい中、こうした地道な取り組みの重要性を感じます。

また今年は正月の能登半島地震以来、全国各地で大規模な災害が相次ぎ、愛媛でも実際に災害報道に取り組む機会が続きました。発災時の映像が瞬時に SNS 投稿などで多くの人の目に触れる時代になり、ネットの発信力はますます高まっていることは児童たちも感じていました。一方で、能登半島地震の際に、虚偽の救援要請が X などで拡散されたために、本当に救助が必要な人のもとへの援助が遅れるなどに繋がったことなどを伝えると、一様に驚くとともに、そうしたネット情報と放送局が発信する情報との違い、自分たちの向き合い方を真剣に考えてくれました。こうした「情報を正しく理解する力」を早いうちから繰り返し養うことが今後ますます大切になると感じました。

【教諭・子どもたち・視聴者などの感想】

<子どもたちの感想>

- ・災害の時のテレビ局や中継のことがよくわかりました。速報性、正確性、公平性、公共性のことがよくわかりました。
- ・放送局の人は、一人一役ではなく複数の役割をこなすことがあることにびっくりしました。
- ・普段から見ているテレビでも、多くの時間をかけて、身の回りの私たちに情報を伝えているんだなと改めて知ることができました。

- ・教科書で予習していたけど、教科書に載っていないことばかりで、そうだったんだと思うことがいろいろありました。

- ・信用できる情報や、本当か嘘か分からない情報もあるというのが勉強になった。

<教諭の感想>

- ・責任ある情報発信者としての意識を育む

放送局では、情報を正確かつ公平に伝えることが求められることを学びました。子どもたちが放送を制作するスタッフの姿勢を目の当たりにすることで、自分たちが発信する情報にも責任を持つ意識を育むことができました。

これは、SNS やインターネットを使う機会が増える今の子どもたちにとって大切なことです。

- ・職業についての理解（キャリア教育として）

放送局には、アナウンサー、ディレクター、カメラマン、音響技術者など、多様な職種の方がいらっしゃることを初めて知った子どもたちがほとんどでした。「自分もこんな仕事をしてみたい」とあこがれの気持ちをもった子どももいたようです。

- ・チームワークとコミュニケーションの必要性について

放送番組は多くのスタッフが協力して制作されていることを学びました。見学では、企画から編集、放送まで一連の流れを見ることができ、仕事を一人で行うのではなく、チームで取り組んでいること、その中で当然チームワークやコミュニケーションが大切であることについても子どもたちは理解することができました。

- ・最新技術に触れる機会として

カメラや音響機器、編集ソフトなど、最新の技術が活用されていることについても教えていただきました。日常生活の中で子どもたちが見たり触れたりすることのない機器やシステムを直接目にすることで、技術や機器について関心をもった子どももいました。ICT 教育を進める上でも有効な機会となりました。

正確かつ信頼性の高い情報を伝える責任をもって日々真摯にお仕事をされている佐伯アナウンサーの話を目の前で直接伺うことで、子どもたちは「責任感」や「常に周囲のことを考えることの大切さ」を学びました。このことは、社会生活の中で最も大切な価値観であり、子どもたちなりに自分の生き方についても考えられたようです。学びの幅が広がる貴重な機会となったこと本当に感謝しています。ありがとうございました。